

アレルギー喘息におけるタルトラジンの排除 (Draft 翻訳*)

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 31 May 2001

背景: タルトラジンは良く知られている食品添加物で、最も汎用される食品添加物の一つである。食色素は食品だけでなく、多くの薬剤で利用されている。タルトラジンが喘息増悪の原因であるか否かについては相反するエビデンスがあり、特にアスピリンに交差感受性のある患者とタルトラジン反応陽性との関連を示した試験がある。

目的: 喘息管理におけるタルトラジン(排除または惹起)の全体的な影響を評価する。

検索戦略: Cochrane Airways Group specialised registerを使って検索した。各RCTの参考文献から追加すべき論文がないか検索した。抽出したRCTの著者に、試験や他の試験の詳細に関する情報を問い合わせた。

選択基準: 経口タルトラジン摂取(惹起として)とプラセボ、またはタルトラジン排除食と正常食を比較したRCTを検討した。アレルギー喘息に注目した試験も加えた。他のアレルギー症状(例えば枯草熱、アレルギー鼻炎、湿疹)のタルトラジン排除試験は、喘息患者の結果を別に抽出したデータのみを検討した。喘息またはアレルギー喘息(例;アスピリンまたはタルトラジンを含むことがわかっている食品に対する感受性がある)の成人または小児の試験とした。

データ収集分析: 2名のレビューアが独立して試験の質を評価し、データを抽出した。アウトカムはRevMan 4.1.1を使って解析した。

主な結果: 90件の抄録を見付け、うち18件が関連していると考えられた。6件は選択基準に適合したが、解析可能な形式で結果を表した試験は3件のみで、いずれもメタアナリシスのために統合することはできなかった。タルトラジンによる惹起、または食事からのタルトラジン排除が喘息成績を有意に変化させることを示した試験はなかった。

レビューア見解: 利用できるエビデンスが足りなかったため、タルトラジンが喘息コントロールに及ぼす効果について堅固な結論を導くことができなかった。しかし、レビューに加えることのできる6件のRCTは全て同じ結論に達した。ルーチンなタルトラジン排除は、感受性が証明された非常に少数の患者を除き、多くの患者で効果がないと思われる。

Citation: Ram FS, Ardern KD. Tartrazine exclusion for allergic asthma. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2001, Issue 4. Art. No.: CD000460. DOI: 10.1002/14651858.CD000460.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Airways

* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。